

令和元年度 学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 (人づくり教育) 2 確かな進学・進路指導 3 選ばれる学校づくり 4 国際理解教育 (ユネスコスクールとして) の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校評価委員 4名 事務局(教職員) 14名
-----	---------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月18日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○生活指導、キャリア教育を含む、すべての学校活動を通して、生徒の自己効力感を育むことを重点目標としている。学校行事などで生徒の主体性を育てているが、まだまだ自己効力感を持っていない生徒も少なくない。 ○一部の部活動は、非常に活性化している。全体としては、改善の余地がある。	①生徒指導・人権教育の充実 ②学校行事・部活動の充実 ③地域、関係機関との連携	○挨拶、清掃活動、頭髪・服装等の基本的生活習慣に係わる指導の徹底。 ○「生徒指導から進路指導」「授業規律の確立」をテーマに、授業姿勢に対する指導。 ○学校行事等での生徒による主体的な運営。 ○問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化。	○挨拶、身だしなみに対する意識が向上した。 ○チャイム授業等、主体的な学びができた。 ○部活動の加入率や活動実績が向上した。また、生徒主体での行事運営ができた。 ○日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止に取り組めた。	①メリハリのある学校生活や積極的に発言できる生徒が増えつつある。(B) ②部活動の加入率は横ばいであるが、サッカー部の県3位、陸上競技部、射撃部の全国大会出場等、確実に実績を残しており、各部の活躍が目立ち始めた。(A) ③開放講座や小中高連携授業などに代表生徒が率先して関わることができた。(B)	B ○学校生活や授業に取り組む姿勢については継続して指導が必要である。また、部活動等での活躍を日常の様々な場面における自己効力感につなげていく指導を推進する。 ○ルールに基づき生徒が主体的かつ能動的に学校活動に取り組めるよう、意識を高められる仕掛けを引き続き工夫していく。
2	○第3学年で進学希望先未定の生徒が例年以上に多い現状にある。大学入試改革の流れやその取り組みについて、進路説明会を通して、学校の取り組みと最新情報について発信し、本人・保護者・学校の三者が協力して進路決定を行う必要がある。また、大学入試改革への対策を教育課程やシラバスなどに反映させていくことが必要である。	①進路実績の向上 ②キャリア教育の推進	○進路計画を配布し定期的に進路希望調査を行うことで、進路活動の見通しを持たせる。 ○各学年主任と連携。 ○コース制の状況に合わせた進路指導の実施。 ○生徒・保護者向けの説明会や進路行事の定期的開催。 ○大学入試改革への対応。	○四年制大学の進学率・難関有名大学への合格者数・国際学院埼玉短期大学への進学者数が増加した。 ○各学年主任と情報共有し、指導に当たることができた。 ○受験に向けて、全体で取り組む姿勢が見られた。 ○コースの特性に応じた進路指導を行うことができた。 ○進路行事を的確に実施することができた。	①四年制大学への進学希望率は現在62.0%で昨年度の進学率(61.5%)より高いが、厳しい入試状況の中で推薦入試に落ち、専門学校などに進学先を変更する生徒が増加傾向にある。(B) ①現時点で、東京外国語大・東京理科大・日本赤十字大・東洋大などで合格者が出ている。(B) ②7月に3年進学・調理コースを対象に志望理由書の外部評価を受けたが、将来に対して意欲的な記述が多く、入学・就職に夢を描いている一生懸命さが伝わるという評価を受けた。(A)	B ○厳しい入試状況が続く中で、現2年生は、共通テストの実施や入試方法の変更など入試改革の初年度となり、生徒・保護者とも不安を抱えている現状である。これまで以上に受験情報の提供や三者面談を行いながら、合格実績を上げる努力が必要である。 ○生徒・保護者向けの進路行事は定期的に行っているため、講演内容等事前アンケートを実施するなど、参加率を上げるための取り組みが必要である。
3	○授業改善・研修を継続し、魅力ある授業展開を追求しているが、アンケート集計結果との開きがあることも事実である。 ○生徒の学校内外での活躍をパンフレットやホームページでの積極的な発信に努めているが、より分かりやすくタイムリーに進めたい。	①授業力向上 ②質の高い広報媒体の制作と展開 ③志願者数の増加	○相互授業見学・研究協議会、授業アンケートの実施。 ○リニューアルした広報媒体による新イメージの定着。 ○小学5、6年生対象プレテストの実施。 ○全身体制での計画的な広報募集活動。	○授業アンケートから生徒の意欲向上が読み取れる。 ○適切な情報提供が学校ブランドのイメージ向上につながった。 ○学校説明会、個別相談会において本校の教育方針等を伝え、参加者の疑問点が改善できた。 ○校内外での効果的な募集活動により志願者が増加した。	①分かりやすい授業の展開と生徒の理解度にまだ開きがある。(B) ②リニューアルした広報媒体の好評価を維持することができた。(A) ③高校志願者は1747名と過去3年間で最多であった。中学志願者数も前年比15%の増加となった。(B)	B ○教員研修の内容を充実させ、全生徒が伸びたと実感できる授業の確立を引き続き目指していく。 ○新イメージを継続していくことで学校ブランドの定着を進めていく。 ○Web広報を一段と強化するとともに中学校・塾訪問に力を入れ、効率かつ効果的に入試相談者を増やす。
4	○ユネスコスクールとしての活動は、学校行事として毎年継続的にできている。しかし、全教職員、生徒が十分にその意義を理解し、積極的に関わっているとは言えない。SDGsの取り組みについても同様なことが言える。	①継続的な学校間交流 ②ESD(持続可能な開発のための教育)・SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けた取り組みの推進	○国際理解を深める機会の充実(IFW(International Friendship Week)・異文化学習会・異国料理学習会・留学生の受入・海外生徒との交流・古着回収運動)。 ○ESD・SDGsに関する講演や説明会の実施。	○学習会や交流に向け、ユネスコスクールの理念やESDについて理解を深め、意欲を高めることができた。 ○学校だけでなく、地域や企業・行政機関等と連携し、SDGsの目標達成について行動することができた。	①異文化学習会や料理学習会、古着回収運動など継続的に活動を進めることができていく。(A) ②本校教員がグローバルコンパクト・ネットワーク・ジャパンの分科会に参加し、教員への啓蒙活動を行うことができた。(A) ③第1学年においてSDGsの描く社会のあり方について、カードゲームを利用して学ぶことができた。(A)	A ○生徒会が主体となってコンタクトレンズケースの回収を行ったり、サッカー部員がリコージャパンのボランティア活動に参加するなどSDGsの目標達成のために動き始めた段階である。次年度以降、こういった動きを加速させるための組織だった取り組みを行っていききたい。

学校評価	
実施日	令和2年2月25日
評価委員からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・教師の目が行き届いた、少人数できめ細かな指導がなされている。一方、生徒の言葉遣いが気になる場面があった。教員と生徒の距離は、言葉遣いも含めメリハリが必要である。 ・教員と生徒、生徒と生徒の関わりの中で、できたという感覚から自己効力感生まれる。その環境を日常生活の中でつくっていくことが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・高校1年生の将来のプランに対する意見発表会で、職業を取り上げる中で月収、年収を取り上げる生徒が多かった。職業のやりがい、魅力への言及が少なくなっているように感じた。それらは本質的な部分で大事である。それらを育てていくために、教員集団が、教師としてのやりがい、使命感を持って、取り組めるように学校全体で取り組んでいくことによって、生徒一人ひとりをしっかりと育ててもらいたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上について、何をどのように変えていったのか、具体的に提示していくことが大切である。例えば授業検討会などで、本当に授業力が上がったのか、それをどう見ていくのか。またこれらをどうしていくのかについても方策を考えていきたい。 ・入試では地元の中学校から多くの受験生があった。地元中学校からの2デイズ(職場体験)の受け入れなどを積極的に行えば、さらに受験者が増えると考えられる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールの交流に加え、国連グローバル・コンパクト加入、SDGsの取り組みと、これまで以上に増々、世界とのつながりを意識した活動が広がっている。海外との積極的な交流がもたらす好影響に引き続き期待したい。 	